



## 自動送液装置 ARIA FAQ (よくある質問)

### マルチチャンネルピペットとの比較

【マルチチャンネルピペット】	【ARIA】
・使用プロトコルに限られる	・幅広いプロトコルに対応
・注入速度のコントロール不可	・幅広いプロトコルに対応
・操作のばらつきが高い	・操作のばらつきが低い
・人的操作ミスによるリスク (コンタミ, 試薬ロス)	・装置による注入のため, ミスによるリスク低減

### 装置の初期設定

送液開始に先立ち, 装置のキャリブレーションが必要となります。必要手順はソフトウェアにより実行され, ユーザはソフトウェアの指示に沿ったチュービング接続等の簡単な操作のみを行います。

### マニュアル操作

マニュアル操作による送液も可能です。本体ボタンで送液する試薬を選択し, 流量とボリウムをダイヤルで設定するだけで送液を開始することができます。

### 外部デバイスとの連動

TTL信号の受信 / 出力に対応しており, 顕微鏡等の他のデバイスと連動して使用することができます。

### チュービングの詰まり

チュービングの詰まり防止のため, 毎実験終了後に装置の洗浄をすることをお勧めしています。洗浄はソフトウェアによる自動制御で行うことができます。もしもチュービングの詰まりが発生した場合は, チュービングを交換することも可能です。

### インキュベータ内での使用

インキュベータ内での使用はできません。

### 試薬の再循環

ARIAは注入に特化した装置のため, 本装置で試薬の再循環をすることはできません。再循環セットアップに最適なバルブ装置等を別途御用意していますのでお問い合わせください。

### 空気の注入

空のリザーバを使用することで空気の注入自体は可能ですが, 送液ボリウムの数値等の正確性が損なわれる可能性があるため, お勧めしておりません。

### 注入可能な試薬の最小ボリウム

20  $\mu$ L

### 最小 / 最大流量

最小流量: 40  $\mu$ L / min (精度の観点から, この流量以上での使用をお勧めします)

最大流量: 1 mL / min (使用するチップ等の抵抗によって変動します)

Version 202005